国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎(026)236-2531
http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

広報 中部の森林（きりん）

「関田トレイル」における四季を通じたトレッキングや、標識類・歩道の整備の様子（写真提供：信越トレイルクラブ）

「関田（せきだ）トレイル」の整備・活動で協定を締結

（関連記事４ページ）

主な項目

◎「特集」　台風23号による管内の国有林被害について …… 2ページ
○「城山史跡の森」の協定を締結 …… 5ページ
○長野県西部地震二十周年祈念式典を開催 …… 5ページ

特集

台風23号による管内の国有林被害について

記録的な大雨により林道等に大きな被害が発生

○林道関係被害額約十一億円
○治山関係被害額約　六億円

今年日本列島に上陸した台風は十個と、観測史上最高を記録し、秋雨前線豪雨と併せ、各地に大きな被害を及ぼしました。

この内、最大級の勢力を誇った台風23号は、十月二十日から二十一日にかけて大雨を併いながら中部地方を縦断しました。

特に岐阜県飛騨地方では、二十日の総雨量が二五六ミリ（高山市［高山測候所による］）に達し

樫原谷足打谷林道（岐阜署）の林道流出現場

大白河地区（中信署）の渓岸の被害状況

家屋流出や幹線道路等が寸断するなどの住民生活に直結した大きな被害が発生しました。

また、長野県の中南信地方においても同様の被害をもたらしました。

管内の国有林施設についても、治山・林道施設等に大きな被害が発生し、また、各署の庁舎施設等においては、飛騨署の森林事務所で床上浸水等の被害がありました。

◎林道関連施設被害

今回の台風被害では、大雨により、特に林道関連施設に大きな被害が発生しました。

林道施設の被害は、路肩決壊・路体流出等の原因により、全体で三四路線、総延長約三キロ、被害総額で約十一億円となっています。

長野県内では、大きな被害が発生した横川坊主、瀬戸沢林道（南信署）をはじめ、大白川林道（中信署）、坊主林道（木曽署）等の二二路線、延長約二キロの被害が発生しました。

岐阜県内では、樫原谷足打谷林道（岐阜署）をはじめ、三尾山林道（飛騨署）等の一二路線、延長約一キロの被害が発生しています。

◎治山関連被害

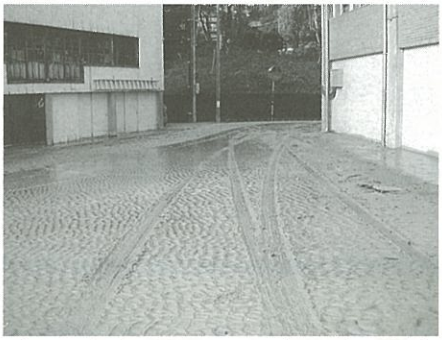
治山関連施設では、渓岸侵食、山腹崩壊等の被害が、全体で七箇所、被害総額約六億円となっています。

長野県内では、山腹災害で奈川村の大白川地区（中信署）、辰野町岩尾沢地区（南信署）、長野市大峰山地区（北信署）、軽井沢町湯川地区（東信署）の四箇所の被害となっています。

岐阜県内では、国府町の保木脇地区、高根村釜ヶ峰（飛騨署）、中津川市ゾーレ沢地区（東濃署）で被害が発生しています。

◎庁舎等関連被害

飛騨署管内で、夏厩（なつまや）森林事務所、大谷森林事務所で床上浸水が、また、署駐車場への土砂流入等の被害が発生しています。



大量の土砂が流入した駐車場（飛騨署）

分収育林「法人の森林」

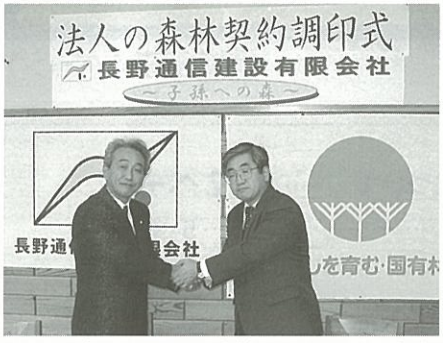
「子孫への森」で緑化活動と自然とのふれあい

［国有林野管理課］十月二十九日、中部森林管理局と長野通信建設有限会社において、分収育林「法人の森林」（子孫への森）の契約を締結しました。

調印式には、当局から関局長と高畑計画部長が、長野通信建設有限会社から竹前社長、関係者が出席し、冒頭、関局長、竹前社長による挨拶の後、契約調印が行われました。

契約地は、北信署管内、信濃町の霊仙寺山国有林（約四ヘクタール、契約期間四十年間）で、ミズナラ外広葉樹を主体とした四六年生の天然林となっています。

会社では、名称を「子孫への森」として、下刈り等の森林整備、森林教室や自然観察等の活動を行い、自然環境を保全・育成する大切さを学びながら、社員やその家族をはじめ、地域の関連企業等との交流を通じて緑化思想を高め、貴重な自然を子孫へ継承し、地域社会に貢献していくこととしています。



握手を交わす関局長（右）と竹前社長（左）

新生国有林の着実な推進

局長会議及び事業担当部長会議を踏まえ、第二回森林管理署長等会議を開催

十月十八日～十九日、森林管理局において平成十六年度第二回の署長等会議が開催され、林野庁における局長会議関連の指示、事業担当部長会議関連の指示等について打ち合わせが行われました。

また、十八日の全体会議では、この会議に併せて来局されていた経営企画課長から訓示をいただきました。

福田経営企画課長から訓示を受ける

◇**局長訓示**

全体会議では、関局長から

①各事業の確実な実行、
②収入の確保対策、
③平成十五年度決算
④三位一体改革、
⑤労働災害及び交通事故の防止

等について訓示がありました。

◇**次長訓示**

①生産量の確保、
②国有林材の販売促進、
③三位一体改革

等について訓示がありました。

◇**経営企画課長訓示**

福田経営企画課長からは、

①国有林の現状と当面の見通し、
②国有林を取り巻く状況、
③国有林の進むべき途、
④組織づくりと人づくり

等について訓示がありました。

◇**総務部長説示**

①綱紀の粛正、②労働安全の確保等（交通事故の防止、労働安全の確保と保護具の完全着用等、メンタルヘルス対策）、③分局廃止後の労働協約の整理、④首席森林官の活用、⑤給与等の口座振込の促進、⑥あさぎり荘利用等について、

◇**計画部長説示**

①林野・土地売り払い等の収入確保、②森林計画、③国民参加の森林づくり、④森林環境教育の推進、⑤NPO等と連携した自然再生、環境教育等新たなニーズに対応、⑥技術の開発・普及、⑦生物多様性・自然再生への取組、⑧流域管理システムの推進、⑨局・署等での活動や取組をマスコミ等を通じたPR、⑩分収育林の適切な販売に向けた体制の確立、⑪レクリエーションの森の整備、⑫境界保全管理技術の向上、⑬森林保全管理等について、

◇**森林整備部長説示**

①平成十六年度事業（進行管理、適正な森林管理、請負事業体の災害防止）、②平成十七年度事業（収穫量・生産量の確保、適正な森林管理）等についての説示がありました。

引き続き各課長等から連絡、検討事項の説明後、意見交換があり会議を終了しました。

国有林の地域別の森林計画へご意見を

千曲川下流（長野県）、宮・庄川（岐阜県）森林計画区における、森林の整備及び保全目標などについて定める「千曲川下流、宮・庄川国有林の地域別の森林計画書」を縦覧していますので、ご覧いただきご意見をお寄せください。

【縦覧場所、問い合わせ先等】

◎千曲川下流国有林の地域別の森林計画

縦覧場所：

○中部森林管理局計画課（TEL.026－236－2613）
○北信森林管理署（TEL.0269－62－4141）

◎宮・庄川国有林の地域別の森林計画

縦覧場所：

○中部森林管理局計画課（TEL.026－236－2613）
○名古屋事務所　（TEL.052－683－9203）
○飛騨森林管理署（TEL.0577－32－0101）

檜皮の森と田立の滝を訪ねて
第三回森林倶楽部を開催

［指導普及課］ 森林倶楽部の第三回イベント「檜皮の森と田立の滝を訪ねて」が、秋晴れの十一月七日、長野県南木曽町で開催されました。

会員八十七名が参加される中、指導普及課、南木曽支署、木曽森林環境保全ふれあいセンター等のインストラクターの案内により、日本の滝百選に指定された「田立の滝」のトレッキングを十班に分かれて実施しました。

田立の滝は、大小十からなる滝とその周辺の森林が一体となった自然景観が魅力で、紅葉の中をインストラクターの案内でトレッキングを行いました。

続いて、賤母国有林「檜皮の森」において（社）全国社寺等屋根工事技術保存会の谷上理事の檜皮採取の説明と原皮師による実演を見学する等、「木の文化を支える森づくり」の取組みを見学し、帰路につきました。

田立の滝（霧の滝）の前にて

総延長五十キロのロングトレイルを整備

「関田（せきだ）トレイル」の整備及び活動に関する協定を締結

長野・新潟両県にまたがる「関田トレイル」の整備及び活動に関する協定の締結式が、十月二十日、新潟県板倉町のグリンパル高原荘において執り行われ、中部・関東両森林管理局、NPO法人「信越トレイルクラブ」、長野・新潟両県、関係市町村の担当者等が出席しました。

県境を連なる標高千メートル程の関田山脈は、冬には八メートルを超える豪雪に覆われ、ブナをはじめとする豊かな自然が残る里山で、その昔は越後と信濃の交通の要所となっており、現在でも十数個の峠が残っています。

「関田トレイル」は、この里山をトレッキングや地元の人達等との交流、また、地域の歴史、文化等の再認識を通じて、環境・健康に対する意識の高揚、山村地域の活性化等に寄与することを目的としています。

全体区間は斑尾山から平丸峠、関田峠を経て牧峠までの整備済み区間と、今後整備予定の牧峠から野々海峠を経て天水山までの約五〇キロ（協定区間は国有林が関係する平丸峠から天水山までの約三〇キロ）に及ぶトレイルコースとなっています。

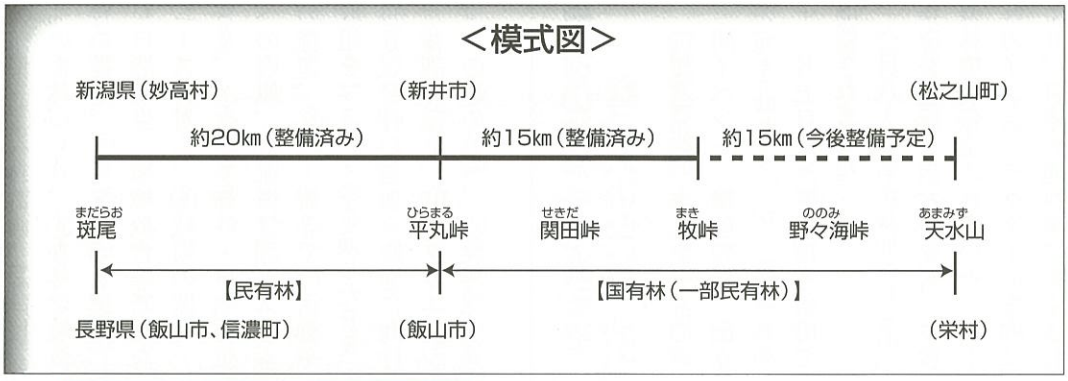
本協定では、北信・上越両森林管理署において国有林を同トレイルのフィールドとして提供するとともに、積極的にこれらの活動を支援していくこととし、活動主体であるNPO法人「信越トレイルクラブ」がトレイルの整備・維持管理・利用を図ることとしています。

握手を交わす左から田之畑署長、小山代表、酒井署長

当日、あいにくの雨天のため式典は室内となりましたが、冒頭、主催者を代表して関局長より「国有林において二つの管理局とNPOが協定を結び連携してトレイル整備することは全国でも初めてであり、地域の皆さんと協力して素晴らしいトレイルにして行きたい」との挨拶があり、また信越トレイルクラブの小山代表理事から「以前からこの関田の素晴らしい自然を感じ、ボランティア等を通じて整備を行ってきた。今後の整備と利用においては、行政との協力・連携が不可欠であり、関田トレイルを地域の宝物として後世に伝えていきたい。」と挨拶がされました。

信越トレイルクラブにより整備された歩道

この後、酒井北信署長、田之畑上越署長、小山信越トレイルクラブ代表理事の間で、協定書の調印が行われ、今後「関田トレイル」の整備と活動に向けて志を新たにしました。



この他、出席された長野・新潟両県、関係市町村等の来賓の挨拶にも、関田トレイルの活動を通じ、地域の交流や発展等に大きな期待が寄せられていました。

信越トレイルクラブでは、現在までに関田山脈におけるトレイルの整備をはじめ、調査・研究、米国アパラチアントレイルでのNPO活動の視察等を実施してきており、今後はこれらを参考としながら、未整備区間の牧峠から天水山までの約十五キロのトレイルの整備や、協定区間の標識・看板等の整備及び維持管理、さらにはトレッキングを通じての森林環境教育や自然観察の場の提供を行うこととしています。

関田トレイル開設の記念バンダナ

歴史を再認識し、自然の保全とした森整備

「城山史跡の森」の協定を締結

十一月二日、長野県木曽福島町に隣接する城山国有林をNPO、ボランティア団体等の活動拠点として整備することを目的に、「城山史跡の森」における歩道・森林整備等の活動に関する協定の締結式が、木曽福島町の木曽郡民会館において執り行われ、木曽森林管理署とNPO、ボランティア団体等の協議会である「城山史跡の森倶楽部」との間で調印がされました。

同倶楽部は、福島城跡を中心とする歴史ある城山を再認識し、自然の保全や森林レクリエーションの場としての整備を通じて、木曽川上下流の交流を図り、地域の活性化・観光振興等を目的に本年十月に設立され、「史跡の森・城山を愛する会」、「NPO法人ふるさと交流木曽」、「NPO法人木曽ひのきの森」の三つの団体を主な構成員としています。

式典は、冒頭プレゼンテーションとして、木曽森林環境保全ふれあいセンターの中熊自然再生指導官から、城山史跡の森の概要が、また信州大学農学部学生の藤沢翠（つばさ）さんによる史跡の森倶楽部の取組みが紹介されました。

引き続き、主催者を代表して、関局長と津田城山史跡の森倶楽部会長から挨拶が行われ、花見木曽署長と津田会長が「城山史跡の森」の協定書に調印を行いました。

この後、長野県文化財保護協会で木曽福島町在住の田中博先生による「中世の木曽と城山の歴史」と題した記念講演が行われ、式典を終了しました。

「城山史跡の森」は、戦国時代の城跡を有し、木曽五木やブナ、トチノキ等の天然林や人工林からなる約八十㌶のバラエティに富んだ森林となっています。

今後は、木曽森林環境保全センターをはじめ、長野県、木曽福島町等が中心となり、自然再生や森林レクリエーションの場として歩道の整備や標識類の設置等の活動を支援していくこととしています。

調印を記念して握手を交わす関係者

城山への歩道を整備する倶楽部の面々

長野県西部地震二十周年記念式典を開催

【木曽署】十月二四日、王滝村銀河村キャンプ場において、長野県西部地震二十周年祈念式典を開催し、災害直後から今日の復旧事業、ボランティア活動に御尽力をいただいた功労者に対し、関局長から感謝状が贈呈されました。

長野県西部地震は昭和五九年九月一四日八時四八分、王滝村を震源にマグニチュード六・八の直下型地震で、御嶽山の南山麓標高二、二五〇㍍から大崩壊が発生し、土石流は伝上川を一気に下り、約六〇〇㌶の森林が失われるとともに、死者行方不明者二十九名の大災害をもたらしました。

当日は、第六回目となる「未来世紀へつなぐ緑のバトン」（主催主滝村、中日新聞社）とのジョイントの形で開催され、森林ボランティア活動で参加した中日森友隊や、イベント参加者らが見守る中、関局長は挨拶で、二〇年前の震災を振り返り、直後の復旧治山工事、その後のボランティアによる植林事業に感謝を述べ、一人一人に感謝状と記念品を贈呈しました。

また、イベント会場では、復興の足取りをパネルにし、局治山課の職員が説明を行い、指導普及課および森林ふれあいセンターの職員が木工クラフト・コーナーを設営し、多くの親子連れらが足を止めて、木に親しんでいました。

なお、感謝状については、個人では、当時の村長で前王滝村長の家高卓郎氏に、国有林関係では、陣頭指揮を取られた、元王滝営林署長の青木勇一郎氏、元長野営林局監査官の田中豊氏に、復旧工事の施工に携われた現場代理人の青木耕栄氏（木曽土建工業㈱）、奥田幸徳氏（奥田工業㈱）、宮下公信氏（吉澤組㈱）の六名の方に授与がされています。

また、団体でも、植林ボランティアで活躍された中日親友隊、林業体験に参加いただいた愛知県立阿久比高校の二団体に感謝状が授与されています。

式典出席者で二十周年を祈念して写真撮影

報道関係・専門紙による国有林視察を開催

金曜会の国有林視察
関田トレイルや森の家を視察

去る十月二十六日、恒例の金曜会（長野県内マスコミ各社の報道責任の会）による国有林視察を実施しました。

今年は、北信署管内の先に協定を結んだ「関田トレイル」のコースやなべくら高原・森の家等を視察することとして、森林管理局からは関局長、中嶋広報室長らが同行し、また北信署から酒井署長や平野流域管理調整官が案内に当たりました。

霧のブナ林を満喫

木村総支配人の説明に聞入る参加者

十社の参加があり、途中の車中において、北信署長から管内概要、業務の取組みのほか、先の台風23号による千曲川沿いの被害について説明を行い、紅葉で色づく鍋倉高原を見ながら関田峠に到着しました。

当日は、あいにくの霧により視界不良となりましたが、なべくら高原・森の家の渡辺指導員の案内により、関田トレイルのコースをトレッキングしました。

霧が漂う幻想的なブナ林の中を歩きながら、渡辺指導員からトレイルコースの整備、標識類の設置等の信越トレイルクラブの活動の様子、また、関田山脈の動植物についての説明がされ、参加者からも、最近のクマ騒動から、動物の話、ブナや里山の様子等への質問が出されていました。

引き続き、なべくら高原・森の家に場所を移し、昼食を取った後、総支配人の木村さんから、森の家の概要や、信越トレイルクラブの活動の様子等の説明を聞き、参加者も熱心にメモを取られる姿が見られました。

この後、施設を視察し、帰路につきました。

今回の視察では、新たな取組とした、国有林におけるNPO、民間団体等の多様な活動を推進するための取組みについて理解を深めていただきました。

王滝村地震災害跡地や裾花川治山事業地等を視察
名古屋林政記者クラブの国有林視察

名古屋林政記者クラブ（加盟六社：林材、木材工業、日本林業経済、日刊木材、林業、西日本林材）の国有林視察が、十月十三日～十四日の両日、木曽署、北信管内において、治山事業の視察を中心に行いました。

今回は、旧名古屋分局との統合後始めての長野県内の国有林視察でもあり、記者クラブからは三社が参加され、名古屋事務所からも山崎次長が同行しました。

初日は、木曽署の小木曽次長、青木治山課長らの案内により、長野県王滝村の西部地震で最も被害の大きかった濁沢地区における災害復旧跡地を視察し、荒涼とした大地が復旧治山工事と二十年間の歳月を経て、緑が復元された様子等を視察しました。

記者クラブ員からは、展望台から望む地震跡地のスケールの大きさに驚きの声が上がり、国有林の地道な復旧治山事業の取組みにご理解を頂くことができました。

濁沢展望台において記念撮影

二日目は、総務部長も同行し、酒井署長、立澤治山課長の案内で北信署管内の裾花川民有林直害治山事業地では地すべり対策の重要性等を理解していただき、戸隠・大峰自然休養林のバイオトイレ、歩道の整備等を視察し、帰路につきました。

今後も国有林視察等の機会を通じて、国民の森づくり、国土保全等への取組みを紹介していくこととしています。

戸隠自然休養林で歩道整備の様子を視察

かけ流しの湯
心のこもった料理で
おもてなし
林野庁共済組合下呂保養所
あさぎり荘
電話　0576(22)2410

第四十八回 全国銘木展示大会開催

［販売課］全国銘木連合会主催による「第四十八回全国銘木展示大会」が十月二十日から二十三日まで、秋田県能代市の秋田県銘木センターを会場に開催されました。能代市での開催は今回で七回目、平成に入ってからは三回目の開催となります。

二十一日は台風23号の襲来に伴い、交通機関が大幅に乱れたため、集客が危ぶまれましたが、飛行機、電車、自動車等あらゆる交通手段により、全国各地から大勢の顧客が続々と会場入りをしていました。

二十一日午前には審査会が開催され、農林水産大臣賞を始め六十点の受賞者を決定し、十五時から記念式典が行われました。

中部局から出品された銘木「木曽ヒノキ」

式典会場となった秋田杉の亭（やかた）「金勇」は、昭和十二年に完成。天然秋田杉をふんだんに使用した豪華な造りで、中でも一際目を惹くのは、一階「満月の間」に使用されている五枚の中杢天井板で、巾一㍍余り、長さ九㍍で一本の天然秋田杉から採材されたもの。今では手に入らない逸品で、「能代の財産」と言われている貴重品です。

優雅な景観が近代能代の文化の繁栄を伝える歴史的建造物として高く評価され、平成十年に国登録有形文化財に指定されています。正に天然秋田杉の故郷であり、今回の全国銘木展示大会の式典会場に相応しい会場となりました。

翌二十二日正午から国有林材を始めとする素材のせりが始まると、辺り一面黒山の人だかりとなり、国有林材の人気振りを窺い知ることができました。

中部局から出品された木曽ヒノキは高価格で落札が進み、南木曽支署（ヘリ材）の五㍍、五〇㌢が百五万円、東濃署（ヘリ材）の八㍍、四八㌢が七十万円、（何れも㎥単価）を始め、市の中でも一際目を惹く盛況な結果となりました。

赤沢自然休養林で 県産材利用事例説明会を開催

［販売課］十一月九日、さわやかな秋晴れの中、県産材利用事例説明会（主催：長野県県産間伐材供給センター協議会）が赤沢自然休養林において開催され、中部局をはじめ、国土交通省、長野県、関係森林組合、県建設業協会、県内各流域林業活性化センターなど関係者約一五〇名が参加しました。

はじめに長野県木連の伊藤専務から挨拶があり、続いて木曽署の花見署長、木曽地方事務所の市川林務課長から間伐材利用の現状と今後の課題等についての説明がありました。

その後、十三の企業・団体がそれぞれ十分の持ち時間の中で、自社で開発した間伐材を利用した製品や工法について説明を行いました。また、会場には平成十五年度に長野県が実施した「信州型木製ガードレール開発事業」により開発され、衝突試験に合格している木製ガードレールや、既にヨーロッパで導入されている間伐材を利用した防音壁等も展示され、参加者の注目を集めていました。

また、「赤沢木材利用等展示エリア」において、木曽署の担当者から、列状間伐等森林整備の事例や治山・林道における様々な木材利用工法について説明が行われました。

間伐材を利用した多種多様な製品と工夫された工法に対する参加者の関心も高く、有意義な説明会となりました。

105万円/m3で落札された木曽ヒノキ

多くの間伐材製品が展示された会場

会議・行事等予定

◎指導普及連絡会議
11月24～25日
瀬戸市内

◎森林ふれあい係長打合せ会議
12月9日～10日
飛騨署管内

◎地域管理経営計画等検討会
12月22日
管理局

研修予定

中央研修（森林技術総合研修所）

▽情報処理Ⅰ
12月6日～12月10日
木内　重明（企画調整室）

▽流域管理システムⅡ
12月6日～12月10日
小坂　隆昭（愛知所）
藤井　四郎（中信署）
瀬下　明久（東信曽）
加地　英孝（東濃署）

▽人材育成
12月14日～12月17日
中嶋　勝浩（総務課）

局研修（研修所他）

▽森林官等研修
12月7日～12月10日
1～2年目の森林官及び主任

各地のたより

竹取りと炭焼きに挑戦

【名古屋事務所】十月十七日、瀬戸国有林において第七回森林ふれあい講座を開催しました。

秋晴れの中、十八名の参加者が、ヒノキ林に侵入している竹を伐採・整備し、竹炭の材料用に運び出しました。その後、菓子などの空き缶を使った観賞用の炭作りを体験しました。自分たちが持ち寄った物・拾い集めた物をおがくずを敷き詰めた缶の中に入れ一時間程火に掛けました。

参加者で協力して竹を除伐

木炭・竹炭について特徴やパワーの講義を受けた後、ドラム缶を横にした簡易型の釜で竹炭作りの手順も学びました。その間に観賞用炭が出来上がり、ヒイラギの葉、マツカサ、ミカン、アケビ等の形がしっかり残った炭が出来上がり、参加者からは歓声が上がっていました。

定光寺自然休養林で植樹体験会

【名古屋事務所】十一月七日、国土緑化推進機構と博覧会協会が主催する愛・地球博（愛知万博）のプレ事業として「瀬戸の森づくり植樹体験会」が開催されました。

始めに増岡瀬戸市長、山崎名古屋事務所長ら来賓による万博会場に自生し希少種であるシデコブシ五本の記念植樹と、記念看板の除幕式を行いました。

この後、一般募集による夫婦、親子連れなどの参加者と名古屋シティ・フォレスター、中日森友隊の隊員らボランティア約二百人が参加し、森林交流館周辺の約一ヘクタールにヤマザクラやミツバツツジ、ヤブツバキなどの苗木約千本を植えました。

植樹後の昼食時には、持参したおにぎりと定番の豚汁に舌つづみを打ちながら瀬戸子供太鼓「こまいぬ座」の演技を鑑賞しました。

午後からは、参加者が同休養林内の森林浴と、万博マスコットのモリゾー、キッコロを描くステンシルや丸太切り鉛筆立て作成の木工教室の二組に分かれて、それぞれの自然体験を楽しみました。

記念植樹を行う山崎所長と緑の少年団

ふれあいの郷で交流会を開催

【南信署】十月十六日、例年実施している「富士見高原ふれあいの郷」交流会を下諏訪町東俣国有林他で行い、契約者二十三名が参加しました。

今回の交流会は、今春に七年に一度の御柱大祭が行われたことにちなみ「御柱を訪ねて」として、「御柱の森」内の伐採跡地から、棚小場、木落坂、連注掛、春宮、秋宮までの御柱が曳行されたコースを巡りました。

御柱の森づくり協議会会長の宮坂源吉さんの案内により、御柱の森では、巨大な御柱材の伐根の前で、御柱候補木の調査から木の選定、昔の人がモミをヒノキの造林地の中に残した心遣い、斧と鋸の手作業による伐採の苦労話などを聞きました。

引き続き、木落坂では、斜面にせり出して設置してある観光PR用の模擬御柱に恐る恐るまたがり間近に見る急斜面に、諏訪の男気を感じていました。

最後に秋宮を見学し、参加者から、奥山の大木から神が宿る御柱になるまで見られよかった等の感想が寄せられました。

御柱材の伐根の前で記念撮影

「旧遠山森林鉄道」に思いを寄せて

「旧遠山森林鉄道」は昭和15年、当時の木曽帝室林野局飯田出張所によって、国有林（遠山本谷、須沢国有林）からの軍用材の搬出を目的として着工され、最盛期には、現在の長野県南信濃村木沢の梨元貯木場を起点として、総延長30.5km、関連職員400名、機関車７台を擁し、木材の搬出のみならず、地域の重要な交通機関としての役割も担っていましたが、搬出手段がトラック輸送に転換していく中で、昭和43年に国有林材の輸送を完了し、その使命を終えました。現在では、南信濃村の木沢地区活性化協議会が、機関車や客車を梨元（元飯田営林署貯木場跡地）に移設・復元し、かつての森林鉄道の栄華を伝え、にぎわいの象徴をよみがえらせようと取り組んでいます。

また、森林鉄道の写真や営林署ＯＢの話などを記載した「遠山（森林鉄道と山で働いた人々）」が発刊され、鉄道ファン等からも注目を集めています。

遠山森林鉄道（S43年の最終列車）

編集　中部森林管理局広報室　編集人　中嶋勝浩